



今回の紙面

- ◆年頭のごあいさつ ◆地域医療最前線 NO. 64 《高濱顕弘 院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 44 《加藤病院2年目看護師》 ◆研修医のページ NO. 47 《新谷洋子 先生》
- ◆「しまね地域医療研修病院ガイドブック」のご案内 ◆臨床研修病院見学会
- ◆平成28年度勤務医師実態調査、看護職員実態調査



番内(出雲市大社町)



年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課

課長 家本 賢

新年 あけましておめでとうござい
ます。旧年中は本県の医療行政の推
進のため、格別のご支援、ご協力をい
ただき誠にありがとうございました。
本年も変わりがなく、どうぞよろしく
お願いいたします。

さて、島根県では昨年10月に地域医
療構想を策定したところです。構想の
策定にあたっては、各圏域において医
療、介護、行政の関係者が一堂に集ま
る場を設定し、議論を重ねてきました。
策定がゴールではなく、これを出発点
として各圏域での具体的な課題の解決
に向けて検討を進め、国へも必要な対
応を求めながら島根の実情に合った
「しまね型」の医療提供体制の実現に
向け努めてまいります。

また、県の医師確保施策につきまし
ては、赤ひげバンクや奨学金制度、代
診医派遣、全県医療情報ネットワーク
『まめネット』など、医師を「呼ぶ」
「育てる」「助ける」の3本柱で取り組

～まち紹介～

番内

周月れでを 面華を町払
の1わ事目 の豪華を厄す。
社で行行役 鬼、衣けりま
大区に兆なす。なり染つ回し
雲地日吉切た き被神にをを
出辺3る大果 大をな身内い

んでいるところです。特に「育てる」
という点では、島根大学の地域枠や奨
学金等の制度により育った医師が、昨
年4月で160名となりました。3年
目以降の医師が、徐々に離島・中山間
地域で勤務を開始し始めています。ま
た、初期臨床研修医についても、平成
29年度に県内で研修を始める予定の
医師が60名と、過去2番目に多い人数
となりました。特に、浜田・益田圏域
では募集定員を初めて100%満たす
など、今後の県内定着が期待されるこ
ろです。

昨年10月に実施した「勤務医師実態
調査」によりますと、県全体の常勤医
師数は1,112人で前年と比べて7
名増加しました。一方で、医師の充足
率(島根大学医学部附属病院を除く)
は75.5%(前年比▲1%)で2年連
続低下しました。これは、医療の高度
専門分化や病院機能の強化、当直体制
の充実等により「必要数」が増加した
ことによるものであり、地域医療は依
然として厳しい状況にあると考えてい
ます。

こうした中、市町村や医療機関の皆
様方におかれましては、医学生や看護
学生に対する独自の奨学金制度を設け
られたり、地域の団体と協同で研修会
や講演会を開催されるなど、地域医療
の確保に最大限の努力をされているこ

とに深く敬意を表します。

県におきましては島根大学医学部附
属病院内に設置した「一般社団法人し
まね地域医療支援センター」を中心に、
大学、医師会、県内医療機関、市町村
と連携して、現在138名の若手医師
のキャリア形成支援や受入体制の充実
などに取り組んでいます。今後も支援
対象の若手医師はさらに増加していま
います。医師不足地域も含めて県内医
療機関の充実に繋げていく必要がある
と考えています。しまね地域医療支援
センターの活動状況はフェイスブック
などにより情報発信していきますので、
ぜひご覧いただきたいと思ひます。
今後とも、県内関係機関との連携を
さらに深めながら、『オールしまね』で
着実な医師確保に努めてまいります。



NO. 64

松江保健生活協同組合
総合病院 松江生協病院

院長 高濱 顕弘



終戦後、いつも
身近で、安心して
かかれる自分たち
の医療機関がほし
いという地域の
人々の願いから

昭和25年に住民自らの出資により松江市天神町に松江生協病院の前身となる松江大衆診療所が開設されました。

昭和27年に生協法人となり、診療所から23床の病院になりました。その後増床を重ね、昭和61年12月には333床の総合病院松江生協病院として現在の場所に移転しました。今では351床を運用しています。

松江保健生活協同組合は、基幹施設である松江生協病院のほかに診療所、歯科診療所、助産院があり、介護の分野では老人保健施設やデイケア、デイサービス、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション等の介護事業所、高齢者住宅を有しています。医療、介護、福祉の分野にわたって生協組合員、地域住民の生活、健康を守る活動を行っています。

人口減少と少子高齢化が進み、社会保障費が抑制される中、地域包括ケアシステムが提唱され、病床機能報告制度が始まりました。さらに昨年には県において地域医療構想が策定されました。各医療機関の機能を一層明確にし、連携を強化していくことが必要とされています。松江生協病院はICU、急性期病棟、回復期病棟、障害者病棟として療養病棟を有しており、高度急性期の一部、急性期、回復期、慢性期の全てに対応していく大規模・高機能ケ

アミックスの病院として、「まちの中の総合病院」の機能を果たしています。

また当院では、「医療を受ける権利は誰もが平等」「患者の人權を大切にし、受療権を守る」という先輩たちの思いを受け継ぎ、入院医療での差額ベッド代や紹介状のない受診、軽症の夜間救急外来受診の選定療養費を頂いていません。医療費が払えず、中断となった患者さんへの連絡や医療相談による受診支援の取り組みを行い、「生協病院に行けば何とかしてくれる」という地域の期待に応えるよう努め、患者さんや地域住民にとってなくてはならない病院を目指しています。

このほか、臨床研修指定病院として研修医の指導にあたり、看護師やその他の職種育成・教育にも力を入れていきます。また、医学生のカリキュラム、高校生の医師体験・看護体験、中学生の職場体験等も積極的に受け入れています。



(医学生実習の様子)

仲間を増やし、底力を蓄えながら島根の医療、介護、福祉に貢献できるようにさらに努力してまいります。

社会医療法人仁寿会 加藤病院

2年目看護師

福田未沙稀、田村美咲
岡田華奈、岩佐千恵



(駕籠かき大会優勝メンバー)
左から著者の福田未沙稀と田村美咲
右2人は1年目の福田、的場

社会医療法人仁寿会は、病院を中核として、診療所、介護老人保健施設、グループホーム、サービス

付き高齢者住宅、さらに在宅療養支援センター（訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・ケアプランステーション）を運営し、在宅医療を中心とした医療・看護・介護サービスを提供しています。加藤病院は、地域包括ケア病床55床（看護配置13対1）と在宅復帰機能強化型療養病床26床（看護配置20対1）を有し、入院当初より多職種と連携を図りながら早期の在宅復帰を目指し、職員一同日々頑張っています。

さて、私たち4人は昨年、仁寿会に採用になり、現在まで病棟・外来で

勤務しています。働き始めて間もない頃は右も左も分からない私たちでしたが、先輩看護師さん（プリセプター）がついてくださり、知識や技術を指導していただきました。また、精神的な面に関しては、プリセプター・部長・課長の順に毎月面談が行われており、その都度不安に感じた事などを相談できる体制が整っていました。こうした環境は働くうえでとても心強く、安心して業務に励むことができました。

仁寿会では支援制度も整っています。准看護師への進学、准看護師から看護師への通信教育受講に対する学費援助や勤務体制の支援を積極的に行っています。この制度を利用して多くの職員が自身のレベルアップを図っています。また、統一したケアの提供を目的とした院内ライセンス制度もあり、口腔ケアや経管栄養、褥瘡処置、車椅子移乗等の筆記試験・技術試験を受け、ライセンスを取得できます。さらに研修面では、新人看護師を対象とした看護技術の研修がプリセプター委員会と教育委員会の計画に沿って実施されます。新人対象の院外研修への参加、院外講師を招いてのスキルアップ研修等もあつて忙しい1年でしたが、モチベーションアップにつながりました。

仕事だけでなく、仁寿会には楽しみも盛りだくさんです。院内旅行が年1

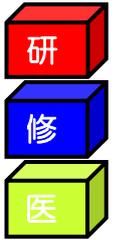
回あり、職員や家族との交流もできません。私たち4人はバレーボール部に入部していますが、病院対抗のバレーボール大会では好成績を収めました。



(バレーボール懇親会にて)

地域の行事にも積極的に参加しており、中でも町内一周駅伝や駕籠かき大会(自作のカゴに20kgの肥料を積み、2kmのコースでタイムを競うイベント)では、地域の皆さんや職員の温かい声援を受け優勝(金メダル)し、賞金をゲットできました。男子職員にはバレーボール部と野球部があり、勝敗は別として老いも若きも一緒に仁寿会を盛り上げています。

このように仁寿会では、職員が学び、遊び、そして成長できる環境が整っており、とても働きやすい職場です。今後も私たち看護師は、看護を必要とする方々の意思を尊重し、専門的知識・技術にやさしさと思いやりの心を併せ持ち、質の高い看護の提供に努めていきたいと思えます。



のページ

NO. 47

島根大学医学部附属病院

2年目研修医 新谷 洋子



の新谷洋子と申します。

私は広島県出身で、島根大学医学部を卒業しました。現在は慣れ親しんだ母校の島根大学医学部附属病院で日々研修に励んでいます。

私の初期臨床研修1年目は松江赤十字病院、2年目は島根大学医学部附属病院で研修しています。研修が始まった頃は右も左も分からない状態で、分からないことや出来ないことがたくさんあり、その中で長時間にわたる勤務は正直辛いなど感じることもありました。しかし、指導医の先生のご指導のもと知識・技術を身につけ、患者さんの病気を診断して治療につなげることが出来た時はとても嬉しく、また辛いに支え合える同期の存在のおかげで楽しく充実した研修生活を送っています。

す。研修中は、学会で発表させていただく機会にも恵まれ、指導医の先生方のご指導のもと、一つの症例を深く考察することの重要性、そして大勢の方の前で自分の伝えたいことを発表することの難しさについても学ぶことができました。

その他にも、地域医療研修として奥出雲病院、津和野共存病院、雲南保健所で研修させていただきました。島根県の地域は高齢化が進んでおり、島根の地域医療は日本の医療の20年、30年先の姿であるとされています。そういった地域の現場で、先生方やスタッフの方々、保健所職員の方々から、その地域に寄り添い、その地域の特色に合った医療を提供することの重要性を教えていただきました。また、医学知識・技術だけでなく介護や福祉の面についても学ぶことができました。

今年の4月からは後期研修医になります。初期研修とは違い指導医の先生が常にいる状態ではなく、一人で診断して治療の方針を決めなければいけないこともあります。まだまだ未熟なため不安な気持ちもありますが、初期研修で学んだ知識・技術を活かすとともに、日々の研修の中で多くのことを身に付けられるよう、精一杯取り組んでいきたいと思えます。

地域の皆様の支えになれるようこれ

からも頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

「しまね地域医療 研修病院ガイドブック」のご案内

県内臨床研修病院からの地域医療研修先の医療機関を掲載した「しまね地域医療研修病院ガイドブック」を発売しました。



本号の「看護師さんのページ」に掲載されている加藤病院さんも載っています。

ガイドブックは当センターのホームページにも掲載されています。

携帯電話、スマートフォンからの閲覧はこちら↓



初期研修の概要だけでなく、地域に暮らす人々とのふれあい、豊かな食や地域の行事、暮らしの情報を掲載しましたので、地域医療に関心を持たれる医療関係者の皆様にもぜひご覧いただきたいと思ひます。

【しまね地域医療支援センター 清水】

臨床研修病院見学会

県内臨床研修病院の指導医と研修医が、普段知ることが出来ない他院での研修内容を見学し、自院の研修へのフイードバックを目的に、病院見学会を実施しました。

4月は益田赤十字病院と島根県立中央病院が相互に、10月は浜田医療センターが松江市立病院を見学され、カンファレンス、救急外来、病棟業務、エコー検査などを互いの病院の研修医と一緒に研修しました。

参加者からは「指導医からの学び、自院で取り入れたい研修や手技、自院との比較など様々な気付きや発見があり、今後は研修医同士が切磋琢磨しながら、より一層力をつけていきたい」との声がありました。

今後も『オールしまね』で研修に取り組んでまいります。

【しまね地域医療支援センター 清水】

島根県では、毎年10月に実施している「勤務医師実態調査」と「看護職員実態調査」の概要をまとめました。各調査結果の詳細は、県医療政策課のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

勤務医師実態調査の概要

調査期日

平成28年10月1日現在

調査対象

島根県内の所在する全51病院及び公立診療所(41診療所)

二次医療圏別の勤務医師充足率

年	県全体	松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
H27	76.5%	82.7%	62.5%	78.4%	68.7%	63.8%	80.1%	89.9%
H28	75.5%	80.2%	67.6%	74.2%	69.7%	66.9%	77.8%	91.3%
増減	▲1.0%	▲2.5%	5.1%	▲4.2%	1.0%	3.1%	▲2.3%	1.4%

二次医療圏別の常勤医師数

(単位:人)

年	県全体	松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
H27	1,105	338	36	493	51	92	69	26
H28	1,112	339	37	501	52	91	67	25
増減	7	1	1	8	1	▲1	▲2	▲1

今回調査では、必要数1,245.9人に対して現員数940.2人で、充足率は75.5%(前年度比▲1.0ポイント)

常勤医師数は、前年同時期に比べ7人の増加

看護職員実態調査の概要

調査期日

平成28年10月1日現在

調査対象

島根県内の所在する全51病院

二次医療圏別の看護職員充足率

年	県全体	松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
H27	95.7%	96.3%	91.7%	96.5%	93.9%	95.5%	95.3%	92.4%
H28	95.7%	98.9%	90.0%	95.2%	94.8%	95.0%	92.4%	89.9%
増減	0.0%	2.6%	▲1.7%	▲1.3%	0.9%	▲0.5%	▲2.9%	▲2.5%

充足率は前年度と同じだが、必要数(+10.2人)、現員数(+13.0人)ともに増加
必要数の増加は、産休・育休取得者の増加、病床利用率の拡大、夜勤体制の充実強化などによるもの

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー(県負担)を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp
ホームページ: www.pref.shimane.lg.jp/iryuu

島根の医師確保対策

検索

